ICHIYOKAN

一陽館薬局の漢方ROOM

不妊治療をしながら漢方薬を飲む場合、
新しい漢方治療のアプローチが必要だと話すのは
子宝漢方で人気の「一陽館薬局」の
かしたに先生。その新理論を
くわしく解説してもらいました。

今回のテーマ

子宝漢方の新理論。治療が長引く人は「肝」に注目を!

かしたに陽子先生

女性の体質に特化した専門性の高い漢方と、豊富な経験による適切なカウンセリングが高い支持を得ている。1999年正倉館薬局、2004年に一陽館薬局八木本店を開局。17年に一陽館薬房 学園前店を開局。著書は『あなたが美しく輝く! 30歳からの子宝健康法』。

漢方治療では、卵巣機能をサポートし、子宮の血流改善をすることで妊娠をめざすのが基本的な考え方ですが、それだけではうまくいかないかたが最近ふえているそうです。かしたに先生が考える新しい子宝漢方について、わかりやすくお伝えします。

不妊治療によって体にダメージを受けている女性がふえています

最近は病院での不妊治療に加えて、漢方薬を併用して妊娠をめざすご夫婦がふえてきました。しかしながら、不妊治療を続けることによって体に負担がかかっているかたもふえていると感じます。体質的な血行不良や卵巣機能の低下といった、もともとの不妊原因に、不妊治療を続けることによる体へのダメージが加わったような状態のなか、漢方治療を始めたいと来られるかたがふえている印象です。

子宝漢方の基本的な考え方では、漢方薬によって子宮の血流を改善し、卵巣機能をサポートすることで妊娠に近づくことができます。しかし、不妊治療で体にダメージを受けているかたが漢方薬を飲んでも、体全体がバランスをくずしているために、改善されにくくなっています。ふつうに漢方薬を飲めば得られる効果があらわれにくい状態になっているといえます。

この状況を改善するために生まれたのが、「肝(かん)」の考え方です。不妊治療でなかなか結果が出ずに治療が長引いているかたや、年齢が高く妊娠力が足りない状態で治療を続けているかたに対しては、漢方治療の基本に加えて「肝」へのアプローチが必要になります。

幹(肝)がやせ細っては栄養が届かないので妊娠もむずかしくなる

木にたとえるとわかりやすいのですが、卵巣機能など、生殖にかかわる必要なエネルギーを供給する「腎」が根っこの部分。それを活用し、花を咲かせたり実を実らせる子宮にあたるのが「脾(ひ)」で、枝葉の部分になります。根っこ(腎)がしっかりしていれば、枝葉(脾)で花を咲かせたり、実を実らせること(=妊娠)ができます。しかし、その間にある幹(肝)がやせ細っていたりもろくなっていては、根っこから栄養を吸い上げることができず、枝葉に栄養を送れません。

「肝」が弱っている人とは、FSH(卵胞刺激ホルモン)の値が高くなり卵胞が育ちにくくなっていたり、排卵が極端に早まっていたりする人。病院では「年齢が高いからしかたがない」と指摘されるかもしれませんが、私たちは年齢的な原因だけでなく、「肝」が関与していると考えます。治療が長引いている、年齢が高くなっているかたには、「肝」を漢方薬でサポートすることが重要なのです。

治療と漢方の併用で妊娠しました!

2018年の一陽館薬局のデータによると、
体外受精と漢方を併用して妊娠・出産したかたは、52%。
体外受精の準備中に自然妊娠したかたは、25%に上りました!

漢方薬を飲み始めて半年で冷えや生理痛が緩和。初の体外受精で妊娠!

——Mさん(37才)

結婚1年後に病院を受診してタイミング法をスタートし、約10カ月後に転院。そこで人工授精にトライしたけれど、なかなか妊娠せず。一陽館薬局を訪れたのは、2回目の人工授精を終えたころ。家の近くで、「ちょっと話を聞いてみようかな」と思ったのがきっかけです。もともと冷え性で生理痛もひどかったのですが、先生に相談したところ「血のめぐりの悪さ」を指摘され、漢方薬を処方してもらいました。すると半年ほどたったころから冷え性がなくなってきて、生理痛も感じなくなってきたんです。飲み始めて約8カ月後に体外受精にトライ。卵が7個とれて3つが受精卵になり、そのうち1つを戻したところ妊娠!

漢方薬は妊娠のために飲み始めたけれど、体の調子も確実によくなったので、試してみる価値はあると思います。

Mさんの妊活ヒストリー

32才　結婚
33才　病院指導のタイミング法開始
34才　転院し、人工授精2回
35才　一陽館薬局に通い始める
36才　はじめての体外受精で妊娠

子宮筋腫手術後に流産を経験。漢方薬服用半年で自然妊娠しました

——TKさん(37才)

結婚前から「子宮筋腫(きんしゅ)があるから妊娠しにくいかも」と言われていたこともあり、結婚と同時に妊活(にんかつ)を始めました。病院で子宮筋腫の大きさや数をみてもらったところ、大きな筋腫が1つあることが発覚。妊娠とともに大きくなる危険性もあることから、34才のときに子宮筋腫の切除手術を受けました。子宮を休ませるためにしばらく妊活をお休みして、術後約4カ月で妊活再開したところ、その翌月に自然妊娠。でも、7週で流産という結果になってしまいました。

友人と会ったときに流産のことを打ち明けると、今まで話をしなかっただけで、実は流産を経験している人が多くて……。そのうちの一人が漢方薬をすすめてくれました。そこで、一陽館薬局に電話相談をしたところ、まずは桃福宝※のお試しセットから始めてみることに。続けられそうだなと感じたので、今度は直接お店に行き、かしたに先生に相談しました。妊娠や体の仕組みについての話を聞いて、すごく勉強になったことを覚えています。

たとえば病院では、タイミング法で妊娠できなかったら排卵誘発剤を使いますと言われていたけれど、かしたに先生からは、副作用もあるので慎重にとのアドバイスを受けました。漢方相談をすることで、妊活や妊娠について知らなかったことをたくさん教えていただいたと思います。漢方薬を飲み始めて2カ月後には、生理の経血の色がよりはっきりとした赤色になって、体もあたたかさを感じるようになり、一陽館薬局に通ってから半年後、自然妊娠することができました。

※一陽館薬局オリジナルの「桃福宝」は、1000例以上の症例分析から開発された、体質改善を目的としたサプリメント。

TKさんの妊活ヒストリー

33才　結婚&妊活開始
34才　子宮筋腫の手術をする
35才　自然妊娠するが、7週で流産。流産の3カ月後、一陽館薬局に通い始める。漢方薬の服用から半年後、自然妊娠

一陽館薬局での相談が心の支えに。最後の受精卵で妊娠できました

——Nさん(38才)

早く子どもが欲しくて結婚1年後に病院でタイミング法をスタート。人工授精の妊娠確率が10分の1だと聞いていたので、続けていればそのうち妊娠できるだろうと思っていたけれど、人工授精を9回行なってもダメで体外受精にステップアップ。4回移植しましたが、やっぱり妊娠できませんでした。そこで勇気を出して36才のときに転院。医師から「卵の質がよくない」とはじめて言われました。人工授精3回後に体外受精を行ない、受精卵は3個できましたが2回戻しても妊娠できず、受精卵は残り1個に。最後の1個はできるだけ万全の体で戻したいと思っていたとき、新聞で一陽館薬局のことを知りました。

当時の私は、これだけ治療を続けても妊娠できないことへのあせりと、妊娠するためには仕事をやめたほうがいいのか、でもお金は必要だし、という迷いもあって、とてもせっぱ詰まった状態でした。そんな気持ちを一陽館薬局ですべて打ち明けて話を聞いてもらったら、すごく気持ちが落ち着いてスッキリしたんです。「まずは妊娠力を高めましょう」とアドバイスをもらい、漢方薬を飲み始めました。先生のお話はどれも的確だったので、甘いものをとりすぎないようにと言われても、すぐに「やめよう」と思うことができたし、体をあたためる食べ物も意識してとるようにもなりました。

漢方薬を3カ月飲み続けて最後の1個を移植したところ、妊娠! 病院に通っていたとしても、基本的な妊娠力がなければ妊娠できないんだな、ということを実感しました。

Nさんの妊活ヒストリー

31才　結婚
32才　病院指導のタイミング法開始
34才　人工授精を9回
35才　体外受精にトライ。4回移植
36才　転院して移植を2回
37才　一陽館薬局に通い始める。漢方薬の服用から3カ月後の移植で妊娠

一陽館薬局

奈良県内に2店舗ある一陽館薬局。スタッフは全員女性で頼れる存在

近鉄橿原線八木西口駅のすぐそばにあり、アクセスもよい八木本店。店内は明るく、女性スタッフばかりなので相談しやすい雰囲気の漢方薬局。同じ奈良県内には系列店の「一陽館薬房 学園前店」もあり、こちらでも子宝相談ができます。

住所▷奈良県橿原市八木町1-11-7
電話▷0120-50-9301
HP▷http://www.ichiyokan.jp
営業時間▷10:00～18:00
定休日▷木曜・日曜・祝日